

会議録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和6年9月20日（金）午後2時から
開 催 場 所	あま市役所 E会議室
内 容	1 あいさつ 2 （1）委員長・副委員長の選任について （2）令和6年度放課後子ども教室について 3 その他
会 議 資 料	令和6年度放課後子ども教室について 令和6年度放課後子ども教室プログラム（資料1） 令和6年度放課後子ども教室活動記録（資料2）
公 開 ・ 非 公 開 の 別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	0人
出 席 委 員	井村なを子委員長、木全克己副委員長、田中裕美委員、 武藤二三夫委員、横井宏之委員、濱島玲子委員、入山てるみ委員
欠 席 委 員	5人
事 務 局	（教育委員会）伊藤克仁教育長 （教育部）鎌倉崇志教育部長 （生涯学習課）内山伸也課長、小出敏夫主幹、近藤博主幹 担当職員5名
【会議の経過】 1 伊藤教育長よりあいさつ 委員、事務局紹介 2 協議事項 （1）委員長・副委員長の選任について 委員の互選により、井村なを子委員が委員長に、木全克己委員が副委員長に選出された。 （委員長） 井村委員長よりあいさつ	

(2) 令和6年度放課後子ども教室について

令和6年度放課後子ども教室について担当より説明。

(委員長)

ただいまの説明について、何かご質問がございましたら、挙手をお願いします。

(入山委員)

12月2日の宝小学校体験会、これ大変素晴らしい企画だと思います。

これ予定見ますと、七宝小学校が12月2日にございますが、そのところの予定は、大丈夫でしょうか。

(事務局)

体験会の日は、七宝小学校のみが実施予定であり、他の七宝地区のスタッフの協力が得られるため、実施に支障はありません。

(横井委員)

活動展示ということで、市役所等に展示されるのは、今年初めてですか。

(事務局)

これまで、「あまのわ」ですとか「親子ふれあいデー」で、活動の紹介はありましたが、庁舎等での作品の展示や活動の紹介は、初めての取り組みです。

(横井委員)

作品展示ということで申し上げますと、あま市でも文化祭というのがありますので、そういうところも利用して展示などしてもらえるといいかなと思います。

(委員長)

他に、まだ何かございましたらどうぞ。

もう少し聞いてみたいことがありましたらどうぞご意見をお願いいたします。

(副委員長)

後半のプログラムのところで、秋竹小学校の10月20日モルックがありますが、モルックはどういう道具を使って、どこの会場でされますか。

モルックは外でやる、それから木製の道具を使うというのが正式です。

体育館でやる場合は、必ず傷がつかないようにジョイントマットを敷いてやるものですか、その辺のところの確認ですけど大丈夫ですか。

(事務局)

今回の秋竹小の方では、コルクのマットを敷いて、傷つかないようにして対応させていただきます。

(副委員長)

今、余分なことかもわかりませんが、スポンジでできたモルック、あるいはダンボールでできたモルックもありますので室内でできるものとして。

はいそれからもう1つですね、甚目寺小学校に10月21日からフットサルが4回入ってますけれども、校長先生も見えますけど、フットサルは一応体育館で防球フェンスが引いてないと、公式ボールを使って体育館ではできないということになってますけれども、その辺のところもよろしいですかね。

多分、スポンジの偽物を使うかわからないけど、正式のフットサルボールを使われるんだと、壁とか何かあったところで全面防球ネットが必要だということで、あま市では七宝の総合体育館のみやれることになってます。

(事務局)

フットサルについては、公式の球ではなくて、室内でもできるドッジボールのような、スポンジの柔らかいボールでやっております。

(委員長)

まだ、何かご質問があれば、予定はまだこれからのところでしょうか。

(事務局)

もう1回冬休みぐらいのところで、スタッフの会議をして、徐々にまた決めていきます。

(横井委員)

正則小学校は、12月2日に、雪合戦これってどうやってやられるのですか。

(事務局)

雪に見立たてたものです。

(井村委員長)

いろいろやっていますねっていうふうに思いますけど、子供たちが飽きのこないように、結構バラエティに富んで、今年も考えてくださってますね。

新しい何か新しいものがいっぱい取り入れてあります。

毎回参加してる子供たちはどうですか、評判は。

(事務局)

そうですね。工作などは得意不得意がありますが、子供たちはすごく喜んで楽しく遊んでいます。また、特に道具がなくても体育館にマーカーを置くだけで、元気いっぱい遊んでいる姿をよく見かけます。何もないところでも伸び伸びと遊べるのは子供ならではのと思い、いつも感心しています。

スタッフたちも子供の反応を気にかけて、「こうしたらいいだろう」と考えたり、子供の意見を聞いて作品作りやスポーツ活動を行っています。後半にはスポーツを取り入れて過ごしており、子供の意見も取り入れながら工夫して活動していただいているところです。

(委員長)

どうでしょうか、よろしいですか。

ないようですので、ではこの議題の2番の協議事項については、終わらせていただきます。

3 その他

(委員長)

事務局から何かございますか。

(事務局)

特にありません。

(副委員長)

確認ですが、委員の任期というのは、7年の3月でよろしいでしょうか。

(事務局)

8年の3月です。

(副委員長)

大変困りますね。

まずスケジュールみていただいたらわかりますけども、9月30日に後半戦が始まります。先ほど報告の活動写真見ていただきました。現在、9割以上が体育館を利用させていただいています。この暑さの中で、9月ちょっと遅らせましたが、9月、10月も暑い。それから、冬はもう寒風さらしの体育館ですので、できれば、空き教室も利用できるようにしていただけたらということをお願いします。それが第1点です。

15点ぐらいあります。

これメンバー見ていただくと、異常事態ではありませんか。

事務局が9人で、委員がたった7人しかいない。

その中で、まずあり方研究会が始まったのは、あま市の中で、美和、七宝、甚目寺が、それぞれの形で放課後子ども教室をやっていたので、あま市モデルとして統一のものを作りましょうということで、統一のものができて、もうスタートしましたので、あり方研究会は終わってもいいんじゃないか。ということが1つ。

そこで言いますと、もうこれ、多分この中で一番古いのは、私と今日休んでいる立松だと思います、その頃は民生委員会の人達がスタッフで手伝いに来てくれました。

(委員長)

はい。

(副委員長)

で、募集も広報といろんな形でやって、父兄を集めて説明会をしたんです。

そしてスタッフを集めて、今年のマニュアルはこれですよ、こういう形で連絡をしますよ。という形でやってきたんですけども、これはもうねえ。

役所の特性、異動でどんどん変わりますよね。

しょうがないですよ。

無理だとは思いますが。

言葉は悪いですけど、これも手抜き状態で、もうぼっぼと形だけで進んでる。

だからその辺のところを1つ考えていただいて、もう学校協働とか市民活動の協働のまちづくりっていうのはどんどん出てますし、それからスポーツ推進計画でも、子どもの健康の支援をとというのが一に挙げてますので、いわゆる新しいスタイルの目標を事務局で作っていただいて、失礼かもしれませんが、我々のような世代よりももっと若い知恵を入れて、一緒に展開だけでも、これ地域の特性がはっきりしてますので、そこで戻して、例えば、Treeringの人も見えるし、ミルキーねっともあるし、ほっとネットもありますし、あまスポーツクラブもある。

そういうところの地域の資源を生かすような形で、下へおろすも直営、社会福祉協議会ですと直営を委託にしておりますけど、生涯学習課が直営でやられるには限界があると思うんですよ。

だからそういう形で地域におろしていくという形の新しいスタイルを作っていただいて、次の研究会に向けていただくというのが一番いいんじゃないかなと思うんです。

本当にちょっと失礼を、もうねここで申し上げたんですけど、我々案内いただいて、研修にいっぱい出ました、オンラインの研修、もうスタッフの人たちは現場で安全に楽しく何をやるかということについていっぱいなんですけど。

あの情報見ると、全国の先進事例、校長会、教育委員会で、全学校を開放してみんなが一体でやってるような、そんな情報我々聞いてもらっても、何をやるかっていうのは、あま市がわかってないのに、これは教育委員会や校長会で流す映像でしょってことバーツとみんな言ってきたんですよ。

まさにその通りで、現場にいるスタッフは、来週子供たちと何を安全にやろうか、何を用意するかっていうことですので、いわゆる具体的なアクティビティーの研修会だったら参加してもいいという、だからそのねらいをはっきりしてスタッフに伝えていただかないと、スタッフは来たけど、何の意味があるんだということで、地区の扱いでどんどん私の方に来ますので、もうここで大きく、見据えたね、骨子のものを作っていて、次に進んでいただけたらということをお願いして、まだ何か8年の3月までであるというので、はい。

(委員長)

私も、1回目から参加させていただいて、本当に最初美和地区だけをモデルにして、それで、3地区がね、3地区の学校を、いちから順番に、今、もう一斉に12校、今は11校になってますけど、本当にスタートする。

それまでの準備のあり方だったと私も思います。

もうスタートしちゃってできたので。

あともうまず、放課後子ども教室を作るっていう、私もスタッフの仲間だったんですけどもスタートして今、何か今はもうあと、それぞれの中身をね、毎年、更新しながら、だから、木全先生が言う通り、そう。

もう、一応形はレールに一応乗ったって私も思ってます。

同じように、あとは、それこそ本当に全体はあま市なんですけど、少しずつカラーが違うのかなっていうことですので、多少の一緒にレールにのるまでいうことを私たちも話し合いしながら、ここに12校が一斉に、スタートしてから、もうちょっとね、大分、皆さんの足並みもそれでそろってきたっていう私も、そんなふうに思います。

あとはもう、私たち、あと、古い人今いません。

今日欠席の他の委員さんの意見も聞いてもらったらいいと思います。とりあえず、私も同じような意見です。

(入山委員)

私は前任者から引き継いで、ここにいます。

前任者がやってきたことはつぶさに聞いてます。

いろんなことを、何の会議があってどう運んで、どういう段取りでこうなりましたっていうのも、すべて聞いてるんですけども、ここに私次座らせていただいて、持っていた感覚が、この位置付けって何だろうっていうのをずっと感じていました。

この委員会ですね、あり方研究会の位置付け、それって何だろうって。

これとは別にまた、スタッフさんたちの、ありますよね、会議が、この前、先回なので、そちらの方にも出席させていただきました。

それで感じたのは、ただ、文面だけでしか私達は情報がなくて、実際の声っていうのはその会議でも、その方たちの声を実は聞くこと私はできず、ただまた文面だけで終わってしまったので、よくよく聞くと、また細分化された会議がある。

どんどん下に下に降りていって、そこで活動を一生懸命考えてくださっている。

だったら私たち、ここの一番上にあるところの、意味って、もうちょっとあるんじゃないかなと思ったんですよね。

もうレールに乗ってしまったかもしれないけど、だったら、下で、本当困ってるんだったらそこでもう投げてしまっっては、どうなのかなっていう。

軌道に乗ったと言われるけれども、この状態で私は軌道に乗ったとは思えないです。

世代交代も一つの選択肢ですが、この委員会自体をなくすより、下との連携を取ってできないかと、思っておりました。下の生の意見をもっと吸い取れるようにしたら、負担が減っていくんじゃないのかなと思ってます。

展示会などの情報も事前に共有されれば協力できることが多くありますので、ご連絡いただければと思います。今後ともよろしくお願いします。以上です。

(田中委員)

このようなすばらしいそのプログラムがあったり、また木全先生から、美和地区からですね、美和地区から集まって何となくこうあま市全体でという、実際に校長なんか特に小学校の校長がこれを、どのぐらい知ってるのかな。

もう恥ずかしい思いで今いっぱいです。

うちの学校だと、放課後さんって一斉下校のときですので、放課後さんはここだよって体育館に行ってやって、スタッフの中には保護者もいましたので、終わりの頃になると、子供とお母さんと一緒に帰って楽しかったね、何やってきた、これやってきたと言って帰っていく姿をみて、ああいいものだなあというのがわかってるんです。

放課後子ども教室への案内がありますが、チラシ配布時にも具体的な活動内容や楽しさを伝える工夫が必要だと反省しております。

(委員長)

お母さんたちの口コミが一番効くんですよ。

(田中委員)

何かこれ誰々ちゃんが行ってるよ、楽しいって言ってたよ。ちょっと行きたいなあとかね、そのあたりのママ友の口コミですね。

宣伝不足です。学校の方の。

(事務局)

我々事務局としましても、生涯学習課として2年目になります。我々としても一人でも多くの児童に放課後子ども教室へ参加してほしいという思いでPR活動を行っています。全12小学校で実施体制は整いましたが、それだけでは不十分です。本来目指すべきは児童一人ひとりが楽しんで居場所づくりとなることです。そのためには皆様からのお知恵やご意見を頂戴したいと考えています。

先ほど副委員長からも、その会議のあり方っていうところも確かに、この要綱を見ていただくと、第2条ですね、1.2番、実施方法に関すること実施場所に関すること、3番に実施

時間実施回数に関すること等々が掲げられています。

おそらく実施方法や実施場所、あま市の全12校で統一され、あま市版ができたことが一番なのかなあと。

2番、実施場所もそうですね。

更なる改善点として実施時間や回数などについて引き続き検討する必要があります。この先令和6年度・7年度まで皆様のお力添えをお願いしながら募集方法や参加人数増加策などについて議論し、この会議自体のあり方も見直していきたいと思いますので、ご協力お願い致します。

(委員長)

「放課後子ども教室」という名前自体をまず知ってもらうことから始めました。当初、お母さん達は児童館と混同していたため、その違いを明確にPRすることから始めました。一斉下校の日(月曜日)に開催し、「宿題は教えません」と説明しましたがお母さん達には理解されず苦勞しました。しかし、身体を動かしたり物作りなど楽しい活動によって徐々に認識されてきました。ただし塾との兼ね合いやお迎え問題など家庭事情によって参加できないケースもあります。その点について家庭事情とのバランス調整が必要だと感じています。

校長先生方にも、中身や目的についてもっと浸透させる場作りが必要だと思います。

(事務局)

もうしばらく、お力をお貸しいただきたいというところでございます。

(副委員長)

3ページをご覧くださいますと、甚目寺の登録人口は平均35人で、スタッフが5人という状況です。1年生から6年生までいる中で、「はい注目」と言っても、このうちの5人ぐらいしか注目しないんですよね。それぞれがバラバラで好きなことをやっています。

あま市内ではスタッフ募集の掲示が至る所にあります。トイレ以外はほとんど置いてありますが、それでも集まりません。今年は保護者の方々にも協力していただいています。我々は専門家ではなく、ただ子供好きの熱心な人たちが運営しています。そのため、何か問題が起きた時の対応も非常に大変です。

保護者と同時に、スタッフの研修を含めてきちんと育成指導していかないと、本当に子供たち1年生から6年生まで切り替えていますので、放課後子ども教室では好きなことをやるという認識があります。そのため、本当にそこら辺も考えていただきたいと思います。5人で運営するなんて本当に大変です。一人がトイレに行くと言ったら1年生について行かなければならず、4人もいると喧嘩して、対応しなければならない状況です。

その辺の現場もやっぱり、先ほど入山さんが言われたように、なかなか写真や紙面では伝わらないということで、そういうところを見て、中身も含めた新しいスタイルの研究会でいつも報告だけで終わらない形で、とりあえずスピード感が必要だと思いますので、よろしくお願い致します。

(委員長)

それではまた2年スタートします。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第1回目のあま市放課後子ども教室のあり方研究会を、閉会とさせていただきます。

今日は本当に大変お忙しい中、皆さんありがとうございました。
ありがとうございました。